

令和 3 年 5 月 30 日現在

機関番号：17701

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K02645

研究課題名(和文)宋代伝奇に基づく科挙の社会的影響の研究

研究課題名(英文) A Study of the Social Influence of Civil Service Examinations, based on Romantic Novels in Song Dynasty, China

研究代表者

高津 孝 (TAKATSU, Takashi)

鹿児島大学・法文教育学域法文学系・教授

研究者番号：70206770

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：科挙は、家柄によらず、広く人々に出世の機会を保障する官吏登用制度であったが、極めて大きな心理的負担を受験者及びその家族に要求した。本研究は、『夷堅志』などの宋代の物語文学を検討することで、当時の人々が科挙の心理的圧力を未来を開示する夢占いに依拠して解消しようとしたことを明らかにし、さらに、『夷堅志』という架空の小説文芸として扱われている作品群が、当時の人々の集合的な心理を反映するものとして分析可能であることを明らかにした。さらに進んで、唐代における科挙落第をテーマとした詩歌の分析によって、唐代の人々が落第という挫折体験を心理的にどのように慰撫、解決しようとしたのかを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

科挙制度の中国社会に対する心理的影響について、研究の空白地域であった宋代について、小説資料に基づき考察を行い、宋代においては科挙に起因する心理的苦悩は夢占いという未来を開示する技術によって解消されたこと、および、その社会的な意味を明らかにしたことは、人類の精神史を解明する上で学術的に大きな意義を有し、かつ、各種の人材登用が、基本的に試験制度に基づき組み立てられている現代社会を、試験制度の歴史から理解するための材料を提供としたことで、社会的意義を有する。

研究成果の概要(英文)：Civil Service Examination were an examination system in Imperial China for selecting candidates for the state bureaucracy, whose concept was choosing bureaucrats by merit rather than birth. But this system put the large mental burden on candidates and their families. This study made clear on analyzing romances in Song Dynasty, such as Yijian zhi, that people in Song Dynasty removed the psychological pressure of Civil Service Examination by using the oneiromancy to disclose the future, and that we could regard these fictitious romances in Song Dynasty as a mirror of the collective psychology of the people at that time. Further this study made clear on analyzing the poetry dealing with failure in the Civil Service Examination of Tang Dynasty, how the people at that time overcame discouragement psychologically.

研究分野：中国文学

キーワード：科挙 宋代文学 伝奇小説

1. 研究開始当初の背景

(1) 日本における科学研究蓄積の活用：日本における科学研究の歴史は長く、重要な業績が積み重ねられている。2000年以降に限っても、高峰『科学と女性』(2004年、大学教育出版)、高木重俊『唐代科学の文学世界』(2009年、研文選書)、近藤一成『宋代科学社会の研究』(2009年、汲古書院)、飯山知保『金元時代の華北社会と科学制度：もう一つの「士人層」』(2011年、早稲田大学出版部)、倉橋圭子『中国伝統社会のエリートたち：文化的再生産と階層社会のダイナミズム』(2011年、風響社)、三浦秀一『科学と性理学 明代思想史新探』(2016年、研文出版)が出版されている。

(2) 中国における科学研究：日本よりも一層盛んに研究がなされており、最近の唐宋の文学関連の重要な著作に限っても、劉琴麗『唐代舉子科考生活研究』(2010年、社会科学文献出版社)、周興祿『宋代科舉詩詞研究』(2011年、齊魯書社)、湯燕君『唐代試詩制度研究』(2014年、中国社会科学出版社)、詹杭倫『唐代科舉與賦』(2015年、武漢大学出版社)、徐曉峰『唐代科舉與應試詩研究』(2015年、北京大学出版社)などがある。

(3) 英語圏の科学研究は、代表的なものとして Benjamin A. Elman, *A cultural history of civil examinations in late imperial China*, University of California Press c2000 がある。

(4) 科学研究書の中国での出版：筆者はすでに、科学と文学に関連した論文を集め、高津孝『科学与詩芸—宋代文学与士人社会』(2005年、上海、復旦大学出版社)を刊行し、欧米の科学関連論文の翻訳出版：高津孝編訳『中国学(シノロジー)のパースペクティブ：科学・出版史・ジェンダー』(2010年、勉誠出版)を刊行している。

(5) 筆者は、すでに宋代伝奇『夷堅志』を対象として、科学と夢の予兆という問題について論文を発表している。高津孝「夢占いと科学—『夷堅志』と夢の予兆」(2015年、伊原弘・静永健編『南宋の隠れたベストセラー『夷堅志』の世界』アジア遊学 181・勉誠出版)である。

2. 研究の目的

科学は、家柄に由らず、広く人々に出世の機会を保障する官吏登用制度であったが、極めて大きな心理的負担を受験者及びその家族に要求した。本研究は、エルマンによって端緒をつけられた明清期における科学制度の社会に対する心理的影響についての研究を、宋代に拡大し、『夷堅志』など大量に残された宋代伝奇、宋代の物語文学に描写された科学社会の状況を検討することで、その様相を明らかにし、さらに、それを明清時代と連結し、科学制度が制度的に完備した宋代以降の中国社会全体を視野に、科学制度の社会に対する心理的影響、及び文学は如何に人々の心理的苦悩に対応したかを明らかにするものである。

3. 研究の方法

(1) 中国で刊行された基本的な科学関連資料の収集を行い、研究基盤の整備を行う。

(2) 科学研究著作(日・中・欧米)、宋代ポピュラー・カルチャー研究著作の収集を行い、研究史整理に努め、本研究の出発点となったエルマンの文学関係科学論文を翻訳し、公表する。

(3) 南宋における物語集『夷堅志』分析を行い、科学、及びエリート文化、非エリート文化にまたがるポピュラー・カルチャーの関連と、宋代文化における心理的側面の研究を行う。

(4) 金元代の伝奇について分析を行い、科学、及びエリート文化、非エリート文化にまたがるポピュラー・カルチャーの関連と、金元代文化における心理的側面の研究を行う。

(5) 日本、中国で研究成果を発表し、論文を執筆する。

4. 研究成果

(1) 本研究による研究の主な成果は以下の通りである。欧米における科学の社会的影響についての研究成果の整理、紹介として、欧米科学研究の代表的著作ベンジャミン・A・エルマン『帝政後期に於ける科学の文化史』の文学に関する部分第6章「感情的苦悶、成功への夢、試験生活」を翻訳し公表した。翻訳「ベンジャミン・A・エルマン「感情的苦悶、成功への夢、試験生活」(上)」(鹿児島大学法文学部紀要『人文学科論集』85、2018年2月)、「ベンジャミン・A・エルマン「感情的苦悶、成功への夢、試験生活」(中)」(鹿児島大学法文学部紀要人文学科論集 87、2020年3月)。金元代の社会状況を知るための重要な筆記資料・金・元好問『続夷堅志』について注釈翻訳を発表し、南宋・洪邁『夷堅志』、金・元好問『続夷堅志』に共通する資料的性格について分析を加えた。「『続夷堅志』訳稿(一)」(『鹿大史学』64・65、2018年3月)、『続夷堅志』訳稿(二)(鹿児島大学法文学部紀要「人文学科論集」86、2019年3月)、『続夷堅志』訳稿(三)(鹿大史学 67、2020年3月)。南宋の科学制度と夢占いの風習について、科学の中国社会への心理的影響という側面から分析を加え、その研究成果を中国広州の華南師範大学で講演し、現地研究者と学術的交流を行なった。口頭発表「故事在科学社会的作用与意义」(華南師範大学文学院珠江人文講壇(第50講)、華南師範大学文学院、2019年3月)座談会「中国古典文学研究的思路与方法」(學術座談:華南師範大学文学院、2019年3月)。筆記資料としての『夷堅志』と南宋社会の関係について、九州大学で開催された中国古典研究会で講演を行った。口頭発表「夷堅志と南宋社会」(2019年度中国古典小説研究会大会、中国古典小説研究会、2019年8月)。科学制度と中国社会、文化との関係を言語学アプローチで研究した研究成果・平田昌司『文化制度和漢語史』

について、書評を発表し、詳細な内容紹介を行った。書評：平田昌司著『文化制度と漢語史』（中國文學報 90、2018年4月）。唐代における科挙制度とその社会への心理的影響を研究するために、科挙落第をテーマとした唐代の下第詩 250 首について全訳を作成し、その研究成果を宋代文学との比較という観点から日本宋代文学学会で学会発表した。口頭発表「科挙と文学—唐宋の下第詩—」（日本宋代文学学会、2020年11月）。さらに、他者への慰めという観点に絞った研究成果を公表した。「唐代の下第詩—他者への慰めという観点から—」（九州中国学会報 59、2021年5月）。

(2) 国内外における位置付けとインパクト。これまで、国内外における科挙の社会的影響についての研究は明清時期のものに集中していた。本研究は、唐代、宋代、金元代を対象を広げ、小説筆記資料、詩歌などの文献を詳細に検討することによって一定の研究成果を上げた点が重要である。さらに、これらの成果について、中国および日本で講演及び研究発表を行い、多くの関連分野研究者と学術的交流を行い、意見交換を行うことで啓発される点も多く、今後の研究活動の指針ともなった。小説筆記資料の資料性について、重要な提言を行った点も重要なポイントである。従来、『夷堅志』などの筆記資料は、歴史と文学を対立的に捉え、史的真実と文学的虚構を区分して考える近代の視線の中で見られてきた。そのため、同一の資料を文学史家は、虚構の文芸の歴史として考え、一方、歴史家は同じ資料を歴史的事実の抽出の対象としてみなしてきた。実際には『夷堅志』などの筆記資料は、短い断片的な物語が大多数で、物語文芸としては興趣に欠けるものが多く、文学史的に重要な位置付けをされることもなかった。筆者は、南宋・洪邁『夷堅志』の後をついだ金・元好問『続夷堅志』を詳細に検討することで、新たな視点を提示した。『続夷堅志』には、虚構という創作的観点はない。しかし、現在の観点から見て、事実の集積とも言えない。『続夷堅志』の伝聞情報の中には、不思議な話、科学的には疑問となるものも多い。これらは筆記資料の著者である元好問の態度の問題に帰着する。すなわち、元好問にとっては事実の収集であり、彼の実体験に関わる部分はリアルな現実が描写され虚構性は乏しい。一方、その伝聞情報は、伝聞という意味での真実性を有するが、その内容は事実のレベルとは見なし難いものも多い。すなわち、筆記資料に記述された事柄は、当時の人々の間に流通していた言説そのものであり、事実/虚構を超えた集合的記憶の総体の断片と見なすことができるのである。そうであるならば、これらの内容は当時の人々の心の中に存在した実際の世界観の一部であり、それを分析することで、具体的に当時の人々の精神的、心理的世界を再現することが可能になるのである。敗者の文学。科挙制度は、才能を試験によって測り、人材を登用する優れた人材登用制度であるが、同時に膨大な敗者を社会的に生み出す制度でもあった。さらに、幼少期より、中国古典をひたすら暗記するという継続的古典学習の成果として科挙に合格することは、最低でも十数年の準備期間が必要であり、過大なストレスを人々に与え、文化的監獄とも言える制度であった。当時の小説筆記資料は、こうした社会的敗者の精神的世界を明らかにしてくれる重要な情報源でもある。本研究では南宋社会で行われた夢占いを手がかりに、科挙制度の心理的影響に分析を加えた。宋代士人は、不確実な未来に対して、少しでも足がかりを得ようと夢の予兆を求めた。しかし、夢の予兆は、それ自体が曖昧で、不明確で、不確実なものであり、いつ、誰が、を明らかに示すものではない。予兆が当たったとするのも、それは結果が明らかになってからの後付けの論理にすぎない。それでも士人は夢の予兆を求め、予兆の実現を願い、夢の予兆に合わせ現実を改変しようと考えた。それは、広く人々に出世の機会を保証することになった科挙制度の別の一面でもあった。唐代において科挙落第をテーマとした詩歌は多数製作された。これら下第詩には、挫折に直面した唐代詩人の感情が直接に表現されており、また、送別詩の形をとった下第詩には、挫折した相手への気遣いの感情が溢れている。本研究においては、唐代における科挙の社会的、心理的影響の研究対象として下第詩を取り上げ、250 首にも及ぶ下第詩の全訳を作成し、それらを分析することで、挫折に対する慰めという行為について 1. 共感、2. 視点提示、3. 忠告、4. 激励、5. 援助の 5 つのパターンから分析が可能であること、唐代においては、行巻という唐代独自の科挙の風習がそれら慰めの行為に影響を与えていること、恥という概念及び面子論を研究する際の重要な例が下第詩には見られることを指摘した。

(3) 今後の展望：本研究は、科挙の社会的、心理的影響を分析したものであるが、その研究成果は、中国研究においてこれまで十分には検討されてこなかった感情の歴史という研究分野に新たな研究方法を提供するものとなっている。小説筆記、詩歌は感情表現の重要な資料ではあるが、単に喜怒哀楽が表現された詩歌の存在を指摘するだけでは、その時代の感情の実際を分析したことにはならない。どのような現象に対してどのような感情が喚起され、それはどのようなパターン、表現形式を取るかについて具体的全体像を把握したのち、始めて個別の感情表現の社会的意味が明らかになる。本研究は大量の筆記資料、詩歌を分析することで、それらの資料に一定のパターン化された感情表現が存在することを明らかにした。今後、これを基礎とすることで別の時代、地域の感情表現との比較研究が可能になり、中国における感情の歴史を叙述することが可能になると考えられる。さらに、この研究は、中国で形成された感情表現としての詩歌が日本で受容される中で、どのように新しい意味を生み出していったかという問題にもつながるものである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 高津 孝	4. 巻 59
2. 論文標題 唐代の下第詩－他者への慰めという観点から－	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 九州中国学会報	6. 最初と最後の頁 31-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 高津 孝	4. 巻 87
2. 論文標題 翻訳「ベンジャミン・A・エルマン「感情的苦悶、成功への夢、試験生活」（中）」（『帝政後期に於ける科学の文化史』第6章）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 鹿児島大学法文学部紀要人文学科論集	6. 最初と最後の頁 45-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 高津 孝	4. 巻 67
2. 論文標題 『続夷堅志』訳稿（三）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 鹿大史学	6. 最初と最後の頁 1-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 高津 孝	4. 巻 86
2. 論文標題 『続夷堅志』訳稿（二）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人文学科論集	6. 最初と最後の頁 127,153
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 高津 孝	4. 巻 90
2. 論文標題 書評：平田昌司著『文化制度和漢語史』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中國文學報	6. 最初と最後の頁 128-154
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高津 孝	4. 巻 85
2. 論文標題 翻訳「ベンジャミン・A・エルマン「感情的苦悶、成功への夢、試験生活」（上）」（『帝政後期に於ける科学の文化史』第6章）	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 人文学科論集	6. 最初と最後の頁 25-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 高津 孝	4. 巻 64・65
2. 論文標題 『統夷堅志』訳稿（一）	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 鹿大史学	6. 最初と最後の頁 23-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 1件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 高津 孝
2. 発表標題 科学と文学 唐宋の下第詩
3. 学会等名 日本宋代文学学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高津 孝
2. 発表標題 夷堅志と南宋社会
3. 学会等名 中国古典小説研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高津 孝
2. 発表標題 故事在科学社会的作用与意义
3. 学会等名 華南師範大学文学院珠江人文講壇（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高津 孝
2. 発表標題 中国古典文学研究的思路与方法
3. 学会等名 学術座談：華南師範大学文学院（国際学会）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------